高千穂町

高千穂町は宮崎県北部にあり、茶畑・棚田等壮観な自然に囲まれている町です。

これらの棚田や茶畑は、繁栄を遂げてきた棚田と100年以上前から先人によって作られた山腹用水路、ここは、世界農業遺産として認定されています。また100mの高さの断崖がそそり立つ高千穂峡、その中央には絵のように美しい真名井滝などたくさんの国の天然記念物があります。多くの観光客は高千穂峡で、日中はボートで、夜は滝のイルミネーションを楽しんでいます。

高千穂の神社は日本神話ゆかりで人気を集めます。数多くの神社は日本の神話や地域の伝説と深く関係しています。例えば、天岩戸神社は、日の神である天照大神がこの世からお隠れになった天岩戸をご神体としてお祀りしています。くしふる神社は、天照大神の孫の瓊々杵尊が、天孫降臨したとされるくしふるの峰にあります。神道神話によると、瓊々杵尊は天皇家の初代天皇、神武天皇の曾祖父といわれています。高千穂地域では、神武天皇と三人の兄弟がくしふるの峰で生まれ育ったと信じられています。そのうちの一人の兄、三毛入野命は1900年の歴史のある高千穂神社に祀られています。

高千穂は国の「重要無形民俗文化財」に指定されている夜神楽の鑑賞を体験できる地域です。夜神楽は神楽・神道の伝統的歌舞であり、毎年冬の時期に、町内の集落ごとに、夜を徹して伝統的な儀式を行い奉納する行事です。これは地域の行事ではありますが、コミュニティ外の方も夜神楽に参加してみることができ、また高千穂の伝統料理、かつぼ鶏（竹筒を使った鶏料理）やかつぼ酒も楽しむことができます。